

3 出土遺物

溝や井戸を中心に平安時代の土師器、須恵器、中世のかわらけ、青磁、鉄滓などが出土しています。小片が多く、時期を特定できる資料は少ないですが、中世のピットから出土した写真1のかわらけは、12世紀前半頃に作られたものです。また、遺構に伴うものではありませんが、古墳時代前期（約1,700年前）の土師器小型壺（写真2）が、ほぼ原形を留めた形で出土しました。隣接する弥五郎遺跡では、この時代の集落跡が見つかっており、注目されます。



写真1 かわらけ（約900年前）



写真2 土師器小型壺（約1,700年前）

4 今後の調査で明らかにすべき課題

館遺跡の発掘調査は、ようやく半分程度が完了した段階です。今後の調査で明らかにすべき課題としては、掘立柱建物や溝、井戸といった遺構の帰属時期を特定したうえで具体的な集落景観の復元が挙げられます。館遺跡で集落が営まれた時代は、古代から中世へ時代が移り変わっていく過渡期にあたります。下割遺跡、二反割遺跡や現在調査中の古屋敷割遺跡をはじめとする周辺遺跡での状況を踏まえながら、調査を進めて参りたいと思います。

たて館遺跡 現地説明会資料



旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	南北朝時代	室町時代	安土桃山	戦国時代	江戸時代	明治時代
-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------

上空からみた館遺跡（南から）

日時：令和元年10月19日（土） 場所：上越市三和区駒林字館

主催：国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所

新潟県教育庁文化行政課 公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

1 調査の概要

館遺跡は、高田平野東部、飯田川右岸の沖積地に立地し、標高は約16mです。館遺跡周辺には、現在調査中の弥五郎遺跡、古屋敷割遺跡をはじめ、下割遺跡、二反割遺跡が所在することから、古墳時代以降、近現代に至るまで断続的に集落が営まれてきた地域であることがわかります。

本遺跡では、国道253号上越三和道路建設に伴い約1,600㎡を対象に、令和元年8月から発掘調査を進めており、平安時代から中世にかけて営まれた集落跡が見つかっています。今回の現地説明会では、掘立柱建物、井戸、溝といった集落を構成する遺構の一部をご覧いただきます。

2 検出された遺構

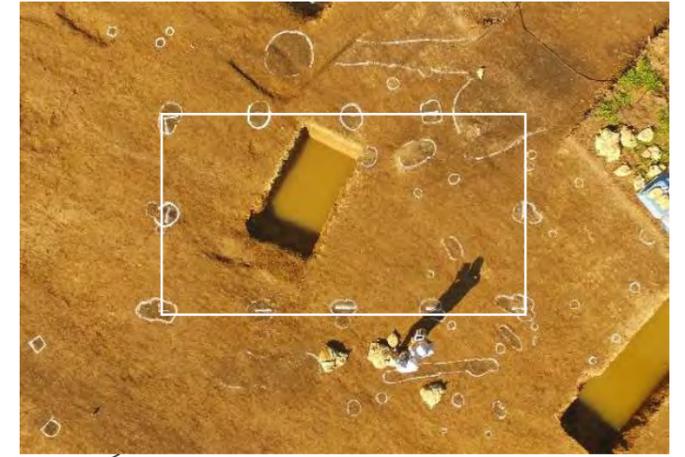
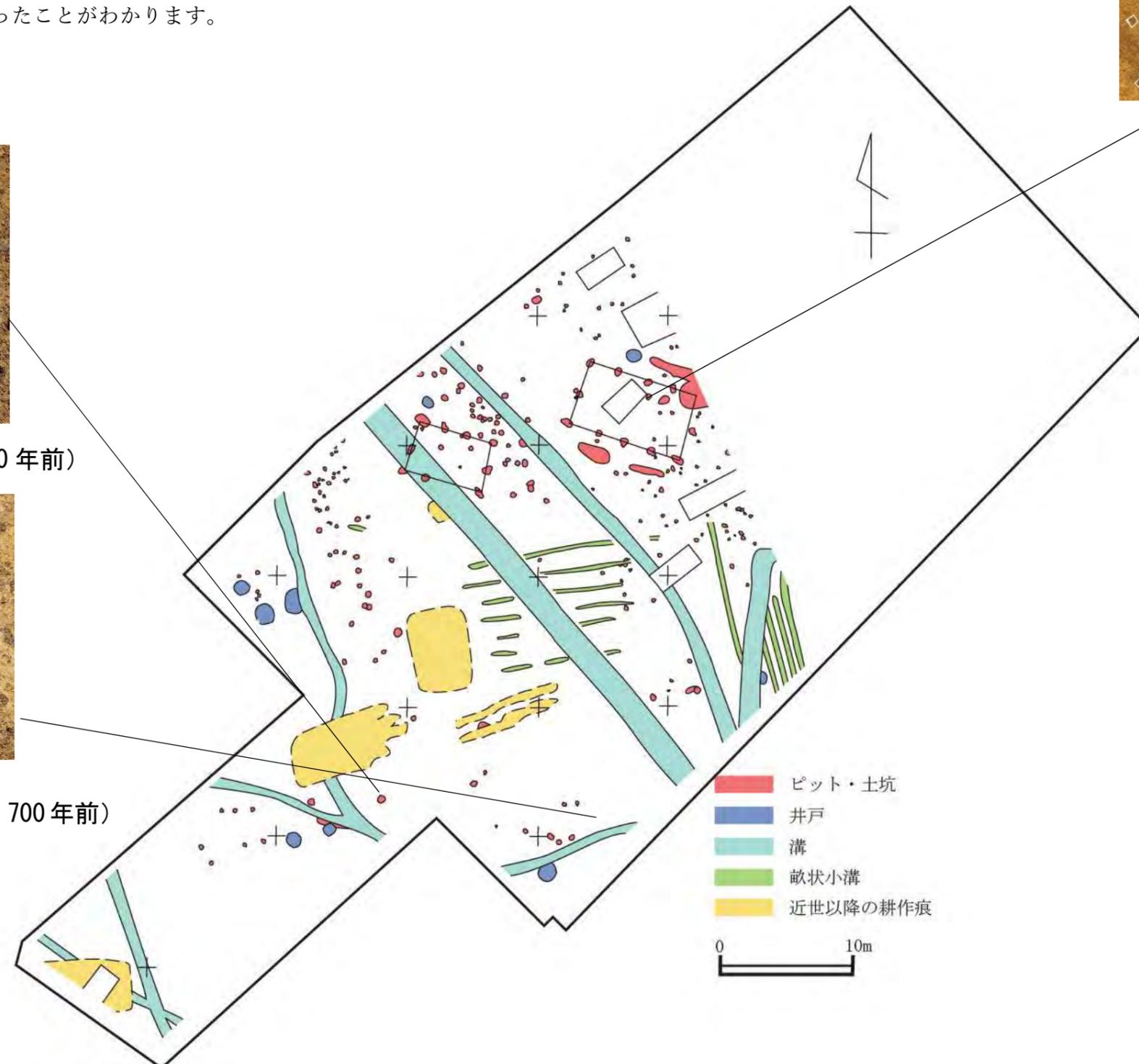
掘立柱建物2棟以上、畝状小溝^{うねじょうこみぞ}20条以上、溝8条、井戸9基、ピット・土坑^{どこう}多数が見つかっています（令和元年9月末日現在）。現時点で、^{いこう}帰属時期が判明している遺構は少ないですが、掘立柱建物や溝、畝間の方向や遺構の埋土の違いから、複数回にわたる集落変遷があったことがわかります。



ピットから出土したかわらけ（約900年前）



壊れずに残っていた土師器小型壺（約1,700年前）



掘立柱建物

はりま^{はりま}2間・けたゆき^{けたゆき}4間の掘立柱建物です。面積は50㎡弱の比較的大型の建物で、建物長軸に沿うように周溝^{しゅうこう}（もしくは雨落ち溝）が確認できます。また、柱穴掘方が方形を呈していることから平安時代の建物であると考えています。建物北側の素掘り井戸はこの掘立柱建物に伴う可能性があります。

館遺跡遺構全体図